日本デューイ学会会報

2017 年 12 月 25 日

目次

Ⅰ　会長挨拶
Ⅱ　第 61 回研究大会報告
Ⅲ　総会報告
Ⅳ　第 61 回研究大会を振りかえって
Ⅴ　紀要第 58 号掲載論文について
Ⅵ　紀要応募要綱（一部変更）
Ⅶ　事務局からのお知らせ

Ⅰ　会長挨拶

日本デューイ学会会長
加賀　裕郎

日本デューイ学会第 61 回大会は、2017 年 9 月 17 日、18 日、早稲田大学を会場に行われました。早稲田大学の藤井千春会員、佐藤隆之会員をはじめ、スタッフの皆様の献身的な働きに、心から感謝申し上げます。

大会は 35 本の個人研究発表をはじめ、基調講演、シンポジウム、課題研究が行われ、大変充実した二日間でした。基調講演には、早稲田大学のご尽力により、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジの David T. Hansen 教授をお迎えし、基調講演に続いて 1916 年の出版以来二世紀目を迎えた、『民主主義と教育』に関わるシンポジウムが行われました。

『民主主義と教育』は出版から 100 年を超えて、なお大きな影響力をもっており、そのことは 2016 年に世界各地で行われた記念の研究大会や出版が続いたことから分かります。それ以上に、今後の 100 年、『民主主義と教育』は、ますます重要性を増すものになるのではないかと信じています（拙論「20 世紀の教育界を根本から変えた一冊・ジョン・デューイ著『民主主義と教育』」『人間会議』2013 年夏号、宣伝会議）。とりわけ日本のように、国家が教育を手段として、一定の方向に向けて、子どもを総動員するという伝統が強い国では、『民主主義と教育』の意義は計り知れないと思います。

本学会としても、『民主主義と教育』を基本としながらも、デューイ教育学研究の最先端を公にするための出版計画が立案され、幸い総会での承認を得ることができました。現在は、出版に向けた基本構想が練られている段階です。学会創立 60 周年の記念出版に続いて、社会に向けた、意義深い貢献になることを確信しております。

さて今大会では、Robert　Sinclair 会員による英語による発表も行われました。これは本学会としては、比較的珍しいと思います。これまで中国や韓国の方々の発表もありましたが、発表は日本語で行われておりました。今後は英語による発表希望も増えてくるかもしれません。

今回の英語による発表は、デューイの

Unmodern Philosophy and Modern Philosophy を題材にしたものでした。この著作を題材にした発表は、これまでほとんどなかったように記憶しておりますので、この本について、少し紹介しておきたいと思います。正確に言うと、上記の著作はデューイの完成した著作ではなく、デューイ最晩年の未完の草稿を、Phillip Deen という研究者が編集して公刊したものです。この草稿にまつわるエピソードは、Corlis Lamont, *Dialogue on John Dewey* や Steven Fesmire, *Dewey* などで触れられています。

デューイは、これ一冊読めば、自らの哲学の主要部分が分かる著作を書きませんでした。デューイは最晩年、自らの哲学のエッセンスを本にしようとしました。そして紆余曲折を経ながらも、かなりの分量の草稿が書かれました。そのような試みは、1940 年前後に始まったと思われます。この前後に書かれた論文の幾つかが、*Unmodern Philosophy and Modern Philosophy* と内容的に重なっているからです。Fesmire によれば、デューイは 1941 年夏から翌年後半にかけて、集中的に原稿を書きました。しかし 1945 年に Joseph Bentley に宛てた手紙では「私は多くの草稿を蓄積しましたが、それは決してまとまらないでしょう」と弱気になっています。それでもデューイは努力したようですが、最終的に、デューイはその草稿を紛失してしまいました。1947 年のことです。

この年の夏、デューイ夫妻はノバスコシアの別荘に滞在した後に、ニューヨークに帰ってきました。そして荷物を自宅アパートに運んでいる間に、デューイは草稿をなくしてしまいました。別荘に置いてきたのか、タクシーの中に忘れたのか、路上に置いている間になくなったのか、はっきりしたことは分からずじまいでした。

デューイは相当、気落ちしたでしょう。その後、1949 年になって Joseph Ratner が再び書き始めることを提案し、共著者として協力してもよいと申し出たのですが、結局、前には進みませんでした。それ以後長い間、未完の草稿は行方不明でした。ところが近年になって、前述の Deen が、南イリノイ大学モリス図書館 Special Collection の中の The Dewey Papers に草稿が残されていることを発見したのです。何故デューイの草稿が The Dewey Papers に含まれるようになったのかは不明です。Deen の大変な努力のおかげで、何とか著作の体をなすようになり、出版にこぎつけたのでした。

この著作は大部なものであり、二部に分かれています。第一部は哲学史的な内容、第二部は現代哲学上の諸問題が論じられています。草稿群を繋ぎ合わせているので、重複や飛躍も多く、読み通すのに苦労します。全体の内容は哲学史を踏まえたものになっています。『確実性の探求』と重なるようなところもあります。これらを読むと、改めて若い頃のデューイが哲学史家としての才能を発揮したことが思い起こされます。

Deen が編集したデューイの草稿とともに、デューイには最晩年に取り組んだ、もう一つの草稿があります。それは『経験と自然』を改訂するにあたり、新しく書かれる予定であった序論の草稿です。この草稿は「西洋人の歴史の哲学的解釈」を主題としていました。1949 年 7 月、デューイはこの草稿を Ratner に送りました。この草稿が、デューイが紛失してしまった草稿と内容的に連続していたことは確実です。しかしデューイは、「西洋人の歴史の哲学的解釈」を企てた草稿の執筆を二年近く中断し、1951 年 1 月に執筆を再開しましたが、その際、それまで書き溜めた草稿を破棄してし、一から書き直そうとしました。その新たな草稿では、『経験と自然』における「経験」が「文化」に改められ、『経験と自然』は『文化と自然』となりました。

「経験」から「文化」への変更の意味を探ることは、興味深い課題です。最晩年のデューイの思想は、どのような方向に向かおうとしていたのでしょうか。Deen が編集した本、*Experience and Nature* に付される予定であった序論、それに *Problems of Men* に収められた諸論

文を含めて検討するに値すると思います。この時期には、アメリカの哲学の主流を占めつつあった論理的経験主義に対抗しようとしたかのような *Knowing and the Known* の公刊、第二次世界大戦への参戦と、大戦後の世界秩序を巡る、デューイの苦悩もありました。そうしたデューイ最晩年の全体像はどのようなものであり、それはデューイ以後にどのようにつながるか興味深いところです。

日本デューイ学会第 62 回大会は名古屋大学で開催される予定です。会員の皆様の活発な研究発表を期待しております。

Ⅱ　第 61 回研究大会報告

2017 年度は、第 61 回研究大会を、2017 年 9 月 17 日（日）と 18 日（月）の両日に渡って、早稲田大学におきまして、早稲田大学教育・総合科学学術院との共催で開くことができました。研究大会準備委員会の藤井千春先生と佐藤隆之先生を始め、第 61 回研究大会の開催にご尽力を賜った関係各位には、この場を借りまして、深甚の感謝を申しのべたいと存じます。ほんとうにありがとうございました。

本研究大会では、例年企画しておりますシンポジウムと課題研究のほかに、コロンビア大学ティーチャーズカレッジから David T. Hansen 先生を講師としてお招きし、講演会を持ちました。Hansen 先生の招聘にあたりましては、早稲田大学の藤井先生と佐藤先生に多大なお力添えを賜りました。重ねて篤く御礼申しあげます。

個人研究発表の会場も、両日ともに、4 会場に及び、量的にも、質的にも、第 61 回大会は、充実した内容となりました。各会員におかれましては、総会研究大会の運営にご協力いただき、まことにありがたく、重ねて謝意を伝えたく存じます。

Ⅲ　総会報告

加賀裕郎会長挨拶、佐藤隆之研究大会準備委員会代表挨拶に引きつづき、藤井千春会員（早稲田大学）を議長に選出し、つぎの議事ならびに報告につきまして、ご検討賜り、ご承認いただきました。

（1）　会務報告

一、研究大会

第 60 回研究大会

2016 年 9 月 17 日（土）・18 日（日）

於岐阜大学

二、理事会

2015 年度第 1 回理事会

2016 年 9 月 16 日（金）16:00 ～ 16:40

ぎふ長良川温泉ホテルパーク会議室

出席理事（敬称略）　早川（会長）　新、加賀、笠松、小柳、中野、西園、早坂、松下、松下、柳沼、行安、米澤、鬢櫛（会計監査）

委任状（敬称略）　新井、金丸、佐々井、佐藤、高浦、高頭、滝沢、藤井、松浦

○ 2015 年度決算および会計監査、2016 年度予算案、2015 年度研究奨励賞選考結果、第 61 回研究大会開催校、2016 年度研究奨励賞選考委員、紀要 58 号編集委員、2016 年度総会議案等の審議

2016 年度第 1 回常任理事会

2017 年 5 月 13 日（土）13:30 ～ 15:30

同志社大学寒梅館 6 階会議室

出席理事（敬称略）　加賀（会長）　小島、佐藤、松下、行安、米澤、新（事務局長）

委任状（敬称略）　早川、藤井、松下、柳沼

○第 61 回研究大会課題研究ならびにシンポジウム、第 61 回研究大会講演者招聘に係る補助金、第 62 回研究大会総会開催校、名簿作成等の審議

2016 年度第 2 回常任理事会

2017 年 9 月 2 日（土）13:30 ～ 15:45

同志社大学徳照館 1 階会議室

出席理事（敬称略）　加賀（会長）、小島、早川、松下、行安、米澤、新（事務局長）

委任状（敬称略）　佐藤、松下、藤井、柳沼

陪席者（敬称略）　溝口（幹事）

○ 2016 年度決算案、2017 年度予算案、2017

年度研究奨励賞選考委員、紀要第59号編集委員、2017年度総会議案等の審議

2016年度第1回理事会

2016年9月17日（土）17:10～17:20

岐阜大学教育学部本館A706

出席理事（敬称略）　加賀（会長）、生澤、上野、小島、小柳、中野、西園、早川、早坂、松下、松下、柳沼、行安、米澤、龍崎（会計監査）

委任状（敬称略）　新、大森（会計監査）、笠松、佐藤、高頭、藤井、松浦

◯常任理事、新事務局等の審議

2016年度第2回理事会

2017年9月16日（土）17:00～18:00

早稲田大学早稲田キャンパス14号館406号室

出席理事（敬称略）　加賀（会長）、生澤、上野、笠松、小島、小柳、佐藤、高頭、中野、西園、早川、早坂、藤井、松下、松下、柳沼、行安、米澤、大森（会計監査）、龍崎（会計監査）、新（事務局長）

委任状（敬称略）　松浦

陪席者（敬称略）　溝口（幹事）

◯ 2016年度決算および会計監査、2017年度予算案、2016年度研究奨励賞選考結果、第62回研究大会開催校、2017年度研究奨励賞選考委員、紀要第59号編集委員、2017年度総会議案等の審議

三、委員会

紀要第58号第1回編集委員会

2016年9月18日（日）12:00～13:00

岐阜大学教育学部本館A715

出席者（敬称略）　伊藤、井上、上野、笠松、小柳、中野、松下（事務局）

委任状（敬称略）　新井、上寺、中村、鬢櫛

◯委員長選出、応募要綱、執筆要綱、図書紹介、編集作業工程等の審議

紀要第58号第2回編集委員会

2017年3月25日（土）13:30～16:10

同志社大学徳照館1階会議室

出席者（敬称略）　小柳（委員長）、伊藤、上野、上寺、中野、中村、鬢櫛

陪席者（敬称略）　松下（事務局編集幹事）、新茂之（事務局編集幹事）

委任状（敬称略）　新井、井上、笠松

◯査読結果、図書紹介、印刷所、英文校閲依頼等の審議

紀要第58号第3回編集委員会

2017年6月10日（土）13:30～14:40

同志社大学至誠館3階会議室

出席者（敬称略）　小柳（委員長）、伊藤、井上、上寺、中野、中村

陪席者（敬称略）　新（事務局編集幹事）

委任状（敬称略）　新井、上野、笠松、鬢櫛

◯再査読結果、図書紹介、引継事項等の審議

四、会員動向

現会員数313名（定期購読機関等を含む2017年9月1日現在）

五、刊行物

◯会報発行2016年12月

◯紀要第58号発行2017年10月1日（印刷所株式会社ティー・エム・ビー）

（2）2016年度決算および会計監査

新茂之事務局長より、2016年度の一般会計決算および特別会計決算について説明がありました。龍崎忠会計監査から会計監査報告があり、審議の結果、決算案が承認されました。

（3）2017年度予算案

新事務局長より、2017年度の一般会計および特別会計の予算案について、説明があり、審議の結果、予算案が承認されました。

（4）紀要第58号編集委員会報告

小柳正司紀要第58号編集委員長からつぎの報告がありました。

一、紀要第58号発送について

2017年8月25日に第3校正を終え、2017年9月6日に日本デューイ学会事務局に納本（500部）されたが、表紙に誤植があり、事務局で当該箇所に訂正シールを貼ったうえで、本研究大会終了後、ただちに発送する。

二、紀要第58号掲載論文について

公募論文 10 本、課題研究 3 本、シンポジウム 2 本、図書紹介 4 本、合計 19 本

三、応募要綱の一部改訂について

第 3 回編集委員会（2017 年 6 月 10 日開催）において、紀要第 59 号応募要綱に関連して、次の点を確認し、次期編集委員会に申し送ることとした。

① 「頁設定（文字数×行数）を最後にかならず明記すること。」を、「書式設定（1 行文字数×総行数）を原稿全体の末尾に明記すること。この情報は、総行数には含めない。」に修正する。

② 「再査読を希望する場合には、「修正報告書」を作成すること（書式は問わない）。「修正報告書」では、審査結果の指摘を受けて、修正した箇所を箇条書きにし、どのように変更したのか、その概要を明らかにする。」という文言を審査（および再審査）結果通知書に追加する。

③ 次号に再投稿する者にも、上記の「修正報告書」を求める。

④ 会報を通じて、紀要第 59 号応募要綱の変更を各会員に周知する。

（5）2016 年度研究奨励賞選考結果について

米澤正雄研究奨励賞選好委員長より、2016 年度研究奨励賞選考結果について、報告がありました。2016 年度は、市川秀之会員の「クリティカル・ペダゴジーにおける規範」（紀要第 57 号掲載論文）が研究奨励賞を受賞いたしました。

（6）2016 年度研究奨励賞授与式

米澤研究奨励賞選考委員長の報告を受けて、その授与式を執りおこないました。加賀会長より賞状と副賞が市川会員に手わたされました。

（7）第 62 回総会研究大会開催校について

加賀会長より、第 62 回総会研究大会を名古屋大学にて 2018 年 9 月中旬ごろに開催したい旨、提案があり、了承されました。開催校を代表して、名古屋大学の松下晴彦理事からご挨拶をいただきました。

（8）紀要第 59 号編集委員会について

加賀会長より、紀要第 59 号の編集委員会の組織について、提案があり、承認されました。紀要第 59 号の編集委員会は、つぎのとおりです。

再任（継続分）（敬称略）　上野、笠松、上寺、中村、鬢櫛

新任（新規分）（敬称略）　林、松下（晴）、森、龍崎、新

（9）*Democracy and Education* 出版 100 周年記念論集企画について

加賀会長より *Democracy and Education* 刊行 2 世紀目を迎えて、それを記念して、同書の、教育と教育理論にたいする現代的な意義を問いながら、デューイ教育学の包括的な理解を明らかにする論集をデューイ学会として刊行する旨、提案があり、了承されました。今後は、当該論集の編集委員会を設置して、その発刊に向けて取りくんでいくことになります。

Ⅳ　第 61 回研究大会を振りかえって

第 61 回研究大会報告

会場校・早稲田大学大会準備委員会

日本デューイ学会第 61 回研究大会は、9 月 17（土）、18 日（月）の二日間、早稲田大学本部キャンパス 16 号館（教育学部棟）、及び小野梓記念講堂にて開催されました。早稲田大学での研究大会は、第 50 回の記念大会以来、約 10 年ぶりの開催となりました。参加者は、会員 93 名、学生 21 名、シンポジウムのみ 2 名の計 116 名でした。

大会に先立ち、前日の 16 日（日）の 17 時から常任理事会が開催されました。

大会第一日目の 17 日（土）の午前には 16 号館で、自由研究発表が 4 つの分科会、合計 16 本の研究が発表されました。

午後からは会場を小野梓記念講堂に移し、総会と基調講演・シンポジウムが行われました。基調講演・シンポジウムに先立ち、早稲田大学教育・総合科学学術院長の松本直樹教授から歓迎のあいさつがありました。

今回のシンポジウムは、デューイの『民主主

義と教育』が2016年の出版以来100年を経過したことを記念し、「『デモクラシーと教育』―2世紀目を迎えて―」と題し、David T. Hansen氏（コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ教授、教育哲学プログラム長、アメリカ・デューイ学会元会長）を招聘し基調講演を頂きました。（招聘は佐藤隆之会員の尽力によって実現したことを記しておきます。）Hansen氏の基調講演では、今日の世界において教育が、なぜ、どのように必要とされているのか、それに対してデューイの『民主主義と教育』がどのような意義を有するのかについて確認されました。基調講演に続いて、早川操会員、佐藤隆之会員を司会として、『民主主義と教育』の今日的意義について小柳正司会員、上野正道会員、虎岩朋加会員による発表がありました。

夕刻には懇親会が大熊会館にて行われ、Hansen氏にも出席いただき、会員たちとの和やかな歓談の一時となりました。

大会第二日目の18日（月）の午前には16号館で、自由研究発表が４つの分科会で、合計19本の研究が発表されました。

午後からは会場を小野梓記念講堂に移し、課題研究「プラグマティズムの可能性」が行われました。笠松幸一会員、藤井千春会員の司会により、現在のプラグマティズムに対する世界的な評価の高まり受けて、新茂之会員、龍崎忠会員、大賀祐樹会員から、それぞれ哲学、教育学、社会科学におけるプラグマティズムの発展の動向と今後の可能性について発表がありました。

会員の皆様には多数ご参加いただき、お陰様で記念すべき盛大な大会となりました。また、Hansen氏の招聘に当たり、理事会の承認のもと学会からは招聘のための資金の援助を頂きました。ここに学会会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

（文責　藤井　千春）

Ⅴ　紀要第58号掲載論文について

紀要第58号編集委員会委員長
小柳　正司

会員の皆様には既にお気づきのことと思いますが、紀要第58号掲載論文中に所定のページ数を大幅に超過しているものがございます。編集過程を確認したところ、当該論文は最初の投稿段階では既定の制限字数内に収まっておりましたが、掲載を可とする査読結果を受けて、最終稿を仕上げる段階で、査読結果通知書に付された参考意見を踏まえて、大幅な加筆修正がなされたことがわかりました。この点につきまして、既に執筆者ご本人からは釈明と反省の弁をいただいております。紀要第58号編集委員会としましては、従来通りの編集規定に従って作業を進めてまいりましたが、こうした事態が生じましたことは誠に遺憾であり、会員の皆様に深くお詫び申し上げる次第です。紀要第58号にはこれ以外にも所定のページ数を若干超過している論文がございます。今後はこうした事態を防ぐために、最終稿につきましてもより一層厳格なチェック体制を整えるべく、次号編集委員会におきまして検討をおこなっていただくことにいたしました。

会員の皆様には以上申し上げましたことになにとぞご理解賜りますようお願い申し上げますとともに、今後とも投稿規定の遵守に努めていただきますようよろしくお願い申し上げます。

Ⅵ　紀要応募要綱（一部変更）

紀要応募要綱（一部変更）につきまして、紀要第59号にご投稿いただく会員には、「応募要綱」を通じて案内しております。応募原稿の字数に係る制限を遵守いただくために、原稿全体の分量を表記するしかたに修正を加えました。ご留意ください。（紀要第58号第3回編集委員会承認事項）

※書式設定（1行文字数×総行数）を原稿全体の末尾に明記すること。この情報は、総行数には含めない。

第一次審査の結果を踏まえて、再審査を希望される場合には、修正報告書の添付が必要となります。これを、紀要第59号に投稿するための権利をお持ちの全会員に適用させていただきますので、ご注意賜れば幸いでございます。（紀要第58号第3回編集委員会承認事項）

※再審査を希望する場合には、「修正報告書」を作成すること（書式は問わない）。「修正報告書」では、審査結果の指摘を受けて、修正した箇所を箇条書きにし、どのように変更したのか、その概要を明らかにする。

Ⅶ　事務局からのお知らせ

【訃報】長年に渡って本学会を支えていただきました毛利陽太郎会員が2017年9月7日に逝去されました。これまでのご貢献に深甚の感謝を申しあげるとともに、ご冥福を心よりお祈りしいたします。

◯現会員数（2017年12月1日現在）
316名（定期購読機関等を含む）

日本デューイ学会事務局
〒 602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601
同志社大学文学部新茂之研究室内
TEL: 075-251-3381
Email: *satarash@mail.doshisha.ac.jp*